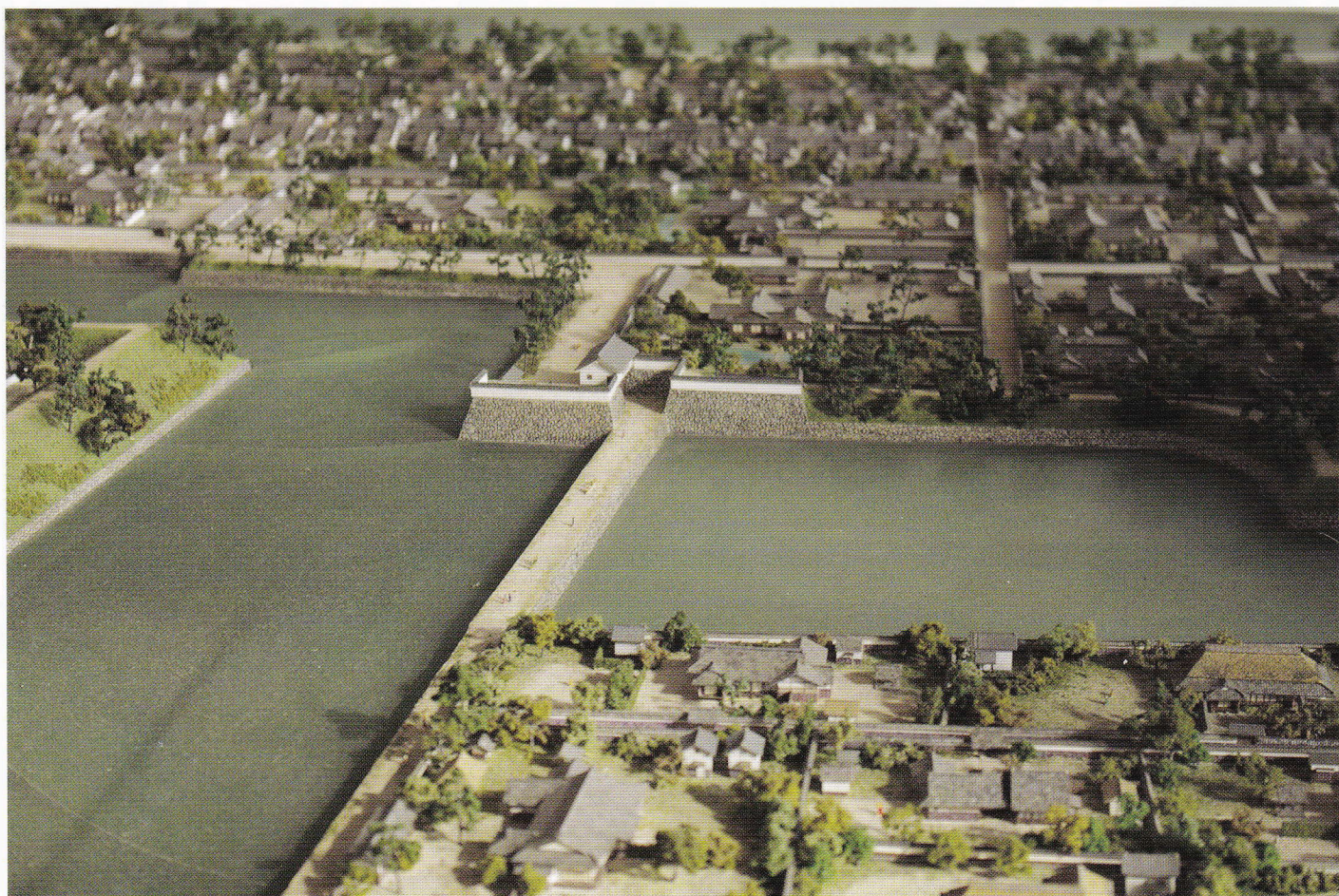


福岡城に天守閣を
— 城のある都市復活!! —

お城だより

2009年4月
No.21



福岡城の外城(外曲輪)を守る、赤坂門(写真提供:しんわ資料室)

「赤坂門跡」

郵便局株式会社 電通福岡ビル内郵便局

局長 萬野 豊



明治通り「赤坂門」バス停付近、九州電力赤坂変電所のレンガ塀に赤坂門跡の説明版が設置されております。この敷地の地下から福岡城「赤坂門」の石垣が発見されたと記してあります。

その「赤坂門」から西、福岡城址の北部、裁判所とお濠を挟んだ「上の橋」に、平成六年十一月電通福岡ビル内郵便局は開局し、今年十五年目を迎えました。今年一月、郵便局の「ふれあいコーナー」において、「新春・福岡城と筑前六端城パネル展」を市民の会事務局関係者のご協力をいただき開催させていただきました。

展示したパネルはどれも見事で、特に「福岡藩領・福岡城下の古地図」への関心が高く、「どこかで手に入れることができないか。」等、お問い合わせも数多くございました。

また、郵便局ご利用のお客様にも、好評いただき、「お濠端会」会員として「福岡城市民の会」の皆様にご貢献できたことを嬉しく思います。

さて、「夢は大きく、東京丸の内オフィス街に負けない福岡城周辺オフィス街を目指し、官民一体となった情報交換の場」の理念を掲げ、福博の歴史や文化に興味溢れるテーマを共有し、「福岡城の天守閣再建」実現への支援を目指す、「お濠端会」も創設されて早や一年が経ちました。

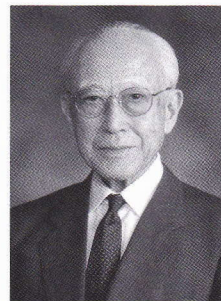
福博の地に生まれ育った私ですが、会員ひとり一人がより一層の「郷土愛」でもって壮大な「天守閣再建」実現も夢ではないと思います。

これから桜の美しい季節です。

城内はさることながら、「赤坂門」に始まる外堀の桜並木や石垣は、私と多くの会員と関係者の皆様に異なる「夢」を見せてくれることでしょう。

黒田家第十五代当主

福岡を愛された長久様をしのぶ



長久様が
二月二十六
日、九十二
才の天寿を
全うされ旅
立たれまし

た。昨年十一月、上京の折お会いし福岡の近況を話題にお元氣な姿に接して間もなくのこと、哀惜の念ひとしおであります。

神葬祭は三月二日、港区青山葬儀所、長高様を喪主に多くの親族の方が会葬されました。

福岡からも、藤香会会長山崎拓氏のご夫人、福岡吉田市長、福岡博物館西館長、福岡市民の会石井理事長、そして光雲神社、菩提寺の崇福寺ほか黒田藩ゆかりの神社寺院の方、黒田奨学会、藤香会関係多数の方が参列され哀悼の意を表し、長久様のご遺徳を偲ぶ盛大な葬儀がありました。

祭主の祝辞^{のりこ}奏上では、長久様のこ一生にわたる経歴とご功績を、弔辞は黒田奨学会各務理事長、山階鳥類研究所山岸所長から夫々偉大な業績について賛辞が奉呈されました。

若い時代から藤香会員として長久様がこ来福の節は親しく接して下さり、ご薫陶を頂きました私にとり、忘れ難い思い出が走馬灯のようにめぐります。黒田家基所保全

のため福岡市の文化財として指定を受けられ、市民参詣の便利のため通路を建設して「藤水門」と命名、自筆扁額など揚げられ、また四年前福岡を襲った大地震では、墓石・灯籠・周囲の石塀倒壊と大被害で、大変憂慮されましたが、一年後には立派に修復が完成し、殊の外喜ばれ「市民の皆さん有難う」と笑顔の一言が目に焼きついています。如水公の四百年遠忌大祭では、第二回里田サミットでご挨拶され、これを機会に「福岡城に天守閣を」という市民運動のスタートになりました。またご家族で初めて山笠や博多どんたくの見物をされたり、見事な鳥絵展を開催されたり、どんたく音頭を作詩作曲されるなど、絵画や音楽への造詣も深く、福岡を故郷として愛され、何かと尽力下さいました。「愛は人生の太陽」「和を以て貴しと為す」を身を以て示され、常に端正な姿勢で、ほんとに氣品に満ちた殿様でありました。これから長高様がご遺志を継がれますが、どうか天国から温かくお見守り下さい。福岡市民、心からご冥福をお祈り申し上げます。

福岡の今の栄えをつくられし

黒田の名こそ永遠にとどめん

藤香会 中島敏行

第五回 お濠端会開催

一月二十日(火曜日)十五時から、ふくおかフィナンシャルグループ本社ビル三階の会議室で開催されました。

石井理事長あいさつ、福岡銀行五島久氏によるフィナンシャルグループビルの概要説明、岡部事務局長より、ゲスト博多仁和加の松崎・浜両氏が紹介され、本題に入りました。「にわかにつくる」即席、「博多ことば」小文化「笑文化」「自然会話」一口仁和加「かけあい仁和加」などのお話。出席者の出題を、見事な即興で作成され、万雷の拍手です。

このあと、五島氏のご配慮により、普段入ることの出来ない施設内を案内していた



FFGバンフレットより

いただきました。環境配慮型オフィスビル、博多織・五色献上をモチーフとして様々な形で広場植栽などが構築されておりました。ビルの十三階(六十四m)からの福岡城趾の眺めはすばらしいものでした。
懇談の後、素敵なビルに別れをつげ、散会いたしました。

新規会員名簿

(平成21年3月30日現在)

正会員(個人)

藤堂 輝明
上田 弘實

一般会員(個人)

古馬 安馬
三輪 勝也
安永 正隆

一般会員(団体)

飯盛宮当流流鏑保存会
宗像大社
福岡第一ライオンズクラブ
フジマツ株

松田 一也
江頭 弘嗣
遠藤 薫
眞次 弘毅
室井 堅太郎
本村 寛明
机元 俊貢
石本 徹亮
小西

福岡城探訪

藩の基軸を築いた

三代黒田光之

藤 金之助

三代藩主・黒田光之は忠之の嫡男として寛永五年（一六二八年）早良郡橋本村で生まれた。「黒田騒動」も領土安堵と無事収まり、これも神仏のお陰と幼時より信仰心が厚かった。藩主となると橋本村の八幡さまを百道松原に移し、本殿、拝殿などを造営し百石寄進したのが紅葉八幡さまである。大正二年、現在地に移されたが福岡の西の中心として繁栄する基盤となった。

このほかにも聖福寺の仏殿修理、承天寺への山林や仏殿寄進、東長寺へ百石寄進など神社、仏閣への配慮を怠らなかつた。

光之が承応三年（一六五四年）四月、二十七歳で藩主の座についた頃、幕府の権威は確立、諸藩への規制、要求は更に厳しくなりつつあった。

特に福岡藩では幕府への手伝い普請、島原の乱への出兵、長崎警備と多額の出費を強いられ藩財政は困窮を極めていた。当時、藩では上米と称して藩士の俸禄を削ったり、年貢を納める時は大きめの斛を、

払い出す時は小さめの斛を使つて一割から二割の利を得ていた。博多弁でこまかすことを「ますぼり」を云うのはこれから出たといわれる。

光之は藩主となると直ちにこれらの制度を廃止、仁政を基本とする藩政に改め勤儉を奨励した。光之治世には早魃、台風、洪水と災害が多く発生したが光之は細目にあたる俵約令を出しその数八回に及んだ。

また財政建直しに力を注ぎ、植林につとめ、新田開発を行った。西公園下の海に良港を築き、海軍や交易の発展に盡くしたり、小石原焼きを起こしたのも光之である。

これら諸事業を速やかに実施するためには支配力の強化が必要で、光之は家格としては新参の財務に明るい者を登用した。いわゆる側近政治が行われるようになっていく。

なかでも立花藩改易後仕へた立花一族が重臣として登用され、そのひとり立花実山は光之の側用人として三千石の大身となる。

実山は博学、多識の文人で学問

好きであつた光之に特に愛された。千利休の茶道の秘本を苦労を重ねて書写し、「南方録七卷」を著し、茶道界に南坊流宗匠として名を残している。

実山の師である貝原益軒もまた光之に見出されて「黒田家譜」や「筑前国続風土記」など多くの著作を残した。

幕府の厳しい鎖国令のなか、長崎警備を命ぜられた福岡藩は密貿易監視役でもあつた。

光之のとき、これに違反した伊藤小左衛門一族の処刑では幼い四郎、万之助も殺される。これを哀れんだ博多の人々が二人の冥福を祈つて建立したのが中呉服町の万四郎神社である。

光之の嫡男綱之は幼い時から賢く期待されて育つが酒を好み、飲めば酒乱の気味があり老臣など罵倒した。その行動に不安を感じた光之は意を決して綱之を廃嫡、弟の長寛を改めて世子とする。のちの四代藩主、綱政である。綱之は幕府に病氣と届け屋形原に幽閉された。

元禄元年（一六八八年）十二月、光之は隠居し綱政が藩主となるが、実際の藩政は光之が八十歳の高齢で死去する宝永四年（一七〇七年）まで隠居の光之とその寵臣立花一族に握られていた。

光之の墓は東長寺に父忠之の墓と並んである。

第48回福岡市民の祭り

博多どんたく 港まつり

◆五月三日(日)・五月四日(月)

◆福岡城どんたく演舞台

(舞鶴公園西広場)

今年で五回目をむかえた福岡城どんたく演舞台。伝統の博多松囃子、三福神に稚児の揃いぶみからいまはやりのフラまでたのしい演目。

新しいものとして宮崎物産展。サンシャインレディと踊り隊が、南国宮崎からどんたくに参加します。

ぜひ、お出かけください。



表紙

福岡城の外城(外曲輪)を守る、赤坂門



※福岡市博物館調べ
※「福岡藩仰古秘笈 六」(福岡県立図書館蔵)を元に作成。黒に白抜きの人名は端城の城主。

【外城】

福岡城本城を守るため内堀・中堀・肥前堀と博多湾の間に「外城」(外曲輪)と呼ばれる地域がありました。現在の大手門・舞鶴・赤坂・大名地区です。

ここに筑前黒田藩草創期には黒田二十四騎の武将の屋敷がありました。(上図)その後幕末まで最上級武士の大きな武家屋敷が立ち並んでいました。

【赤坂門】

この外城地域を囲む堀の内側には、西から赤坂門・薬院門・数馬門あり、特に中堀北側の武家屋敷を南から守る重要な門が赤坂門でした。

現在の中央区赤坂一丁目8、11番辺りです。(九州電力・赤坂変電所に「赤坂門跡」の説明プレートあり)



赤坂門石垣

『福岡市の絵馬』より

編集後記

旧福岡藩十五代当主黒田長久公が逝去されました。思えば福岡城築城四〇〇年を記念して、二〇〇三年(平成十五年)のどなたくに一三〇余年ぶりに、黒田長久・長高公親子が参加され、六月に創刊されたお城だよりの巻頭表紙を飾ったのはお二人のスナップ写真。

福岡と博多の藩主・武士と町人の交流の姿の再現でした、あしかけ六年、お城だより二十一号の発行となります。

「初心忘るべからず」これからも、かつての福岡城再現を目標に諸事万端に心していきたいと念じております。



編集・発行:

鴻臚館・福岡城跡歴史・観光・市民の会

住所:

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-15
読売福岡ビル7階

TEL:092-716-8238

FAX:092-716-8254

HPアドレス:

<http://fukuokajokorokan.npggo.jp/>

E-mail:

fukuokajo@tos.bbiq.jp

デザイン・印刷:(株)セブンプリンティング